



北部普及だより

(豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町)

センシングのススメ

収量アップは「ハウス環境の見える化」から！

収量アップや省力化等を実現する方法として、スマート農業が注目されています。米作りが主体の北摂では、スマート農業といえば、ドローンを思い浮かべる方も多いと思います。当事務所では各種センサーによる計測と数値化を行う「ハウス環境の見える化（センシング）」の取組を進めています。

昨今の情報通信技術の発達により、比較的安価にセンシングが可能となりました。

これにより、長年の経験をもとに行われてきた栽培管理をデータに基づき、より精度高く高品質化や省力化につなげることができます。また、蓄積したデータをベテランの生産者と比較・分析することで、ハウス環境の改善に繋げることができます。

管内のハウスいちご生産者による北摂いちご生産者の会では、生産者自身が組み立てたセンシング機器を9月からほ場に設置し、温湿度、二酸化炭素濃度、日射量の測定を行っています。



▲ハウスの状況をリアルタイムでモニタリング

当事務所では、データの蓄積と合わせて、葉の大きさ、葉色の濃さ等の生育調査を実施し、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所（以下、研究所）と連携して、解析を進めています。2月に冬場のハウス管理とデータ活用についての研修会を Web で開催しました。センシングデータを基に、各生産者の実際のハウス管理方法について意見交換を行ったことで、参加者は他の生産者のハウス管理のコツを知ることができ、また自身の栽培をより客観的に把握することができました。

今作が初めてのセンシングとなります。当事務所では、今後も北摂いちごの収量アップと販売額向上に向け、生産者のみなさんと共にセンシングデータを活かした栽培管理をすすめていきます。

「ハウス環境の見える化」に関心のある方はぜひ、当事務所までお問い合わせください。



▲(左)DIY センシング機器 (右)Web 研修会

国連では、2030年までの国際目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が2015年に策定されました。北部農と緑の総合事務所 農の普及課の活動はSDGsに掲げる17のゴールのうち、右図のゴールの達成に寄与するものです。



北部の切り枝花木・花壇苗・切り花で大阪を美しく！

切り枝花木はホテルやレストランなどでの業務利用が多く、イベントに合わせてきちんと開花し長期間鮮度保持されることが求められています。

そこで当事務所では、開花調整や水揚げが困難な切り枝花木の有利販売に向け、研究所と連携して試験を行っています。今年度は、豊能花木研究会会員の啓翁桜等について、開花に必要な低温の積算温度の解明や花の発色を高める処理法の実証を行いました。

また北部の生産者も加入している大阪府花き振興協議会では、2025年の大阪・関西万博を見据えた鮮度保持の試験等を研究所と共に実施しているほか、主要ターミナル駅や駅ビル等を装飾して、消費拡大をすすめています。

当事務所ではこれからも大阪の花が家庭や街を彩るよう、取組を進めていきます。



▲低温積算時間による開花の違い
(左：積算時間短い 右：積算時間長い)



▲花壇苗と切り花も飾花



▲飾花された啓翁桜とハナモモ



▲花色の発現
(左：低温処理なし 右：低温処理あり)

トマトの苗立枯症対策に取り組みました！！

北部のトマト生産者は冬から春にかけてトマトを出荷する長期抑制栽培も行っています。この作型は夏の高温期に育苗を行うため、ピシウム菌による苗立枯症に例年悩まされてきました。このため、前作からの菌の持ち込みを抑えるため、育苗に使用する資材・かん水方法の改善やポットの底上げによる実証試験を生産者と共に行いました。

その結果、ポットへの菌の侵入を防いだことにより、苗立枯症の発生を昨年と比較して大幅に抑制でき、現在順調に生育しています。



▲(左)慣行区 (右)底上げ区



▲(左)苗立枯症の苗 (右)健全苗



▲ピシウム菌

おめでとうございます！

池田市の井関義次さんが、令和3年度大日本農会農事功績表彰において緑白綬有功章を受章されました。有機 JAS 認証等を活用した先進的な経営や地域農業への貢献が評価されました。

種苗を購入して栽培する方はご注意ください！

購入種苗に使用された農薬の種類・回数を購入店舗や種苗袋等で必ず確認し、栽培期間中に使える回数を把握してください。

例) 総使用回数が5回に制限されている農薬成分の場合
育苗期間中に1回使われている場合は、定植後にその成分は4回しか使用できません。

